

# Campus Today



## 柔道家・出口クリスタ・ケリー 姉妹が来学



一日警察署長として本学を訪れた出口クリスタさん（右）とケリーさん

### 塩尻警察署の一日署長として啓発活動 留学生の呉君が110番通報訓練に協力

「110番の日」の1月10日（水）、柔道家の出口クリスタ、ケリー姉妹（塩尻市出身、柔道女子カナダ代表）が塩尻警察署の一日署長を務め、本学を訪れて110番通報の啓発活動を展開した。本館1階の学生ラウンジにおいて学生や職員らにチラシを配り、110番通報の適正利用を訴えた。また留学生による通報訓練も行われた。

出口姉妹は塩尻市の出身で、日本人の母とカナダ人の父の間に生まれ、地元で幼い頃から柔道を始めた。ともに松商学園を経て山梨学院大学に進み、五輪出場の夢をかなえるためにカナダ国籍を選択し、柔道女子カナダ代表となっている。

クリスタさんは、昨年の柔道世界選手権女子57キログラム級でオール1本勝ちで優勝し、現在は世界女王。市民の声援を受けながら今夏のパリオリンピック出場およびメダル獲得を目指す。二人は、「生まれ育った地元の方々への応援が力になる。塩尻市の安全のために役に立てれば」との思いで一日署長を引き受けた。当日は、柔道着姿に「一日警察署長」と記されたタスキを掛けて学生ラウンジに登場し、110番通報の現状を紹介した。昨年、県内に寄せられた110番通報は11万2900件で、そのうち誤通報や警察の対応が必要ない通報が2万8000件と4分の1を占めた。



学内でチラシを配布するクリスタさん

ときにボタンが押しっぱなしになり、自動通報機能が働いて110番の誤通報が増えている」と注意を促し、ケリーさんは「緊急でない相談などは110番ではなく最寄りの警察署か交番へ」と呼びかけ、学生や職員らに適正通報のチラシを配った。

また、県内では外国人による110番通報も増えていることから、留学生による通報訓練も行われ、中国からの留学生・呉澤渡君（歯学部1年生）が協力した。

塩尻警察署員が段ボールでつくった軽トラックの模擬車両役と歩行者役を演じ、交通事故現場を演出。呉君が事故現場を目撃した想定で、110番に通報し、通信指令課の警察官にいつ、どこで、なにがあったか、車の特徴とナンバー、負傷者の状況、通報者である自分の名前などを日本語で的確に伝え、その落ち着いた対応ぶりは出口姉妹から賞賛された。



交通事故を想定して110番通報訓練を行った呉君（中央）

谷徹教授が「全身偶発症を防止するための歯科治療時の医療安全管理」と題して講演。患者の全身状態の適切な評価が予防の第一歩だとした。歯科保存学講座の吉成伸夫教授は「歯周病と全身疾患の関連性から安全歯科治療を考える」の演題で、口腔と全身の疾患の関連性を示す根拠が一段と強化されている現状を踏まえ、医科歯科連携を加速させることや国民への正しい情報発信が今後さらに重要になるなどと話した。

### 国際歯科医療安全機構学術大会・総会を開催 栗原祐史教授を大会長に本学教授陣が講演

歯科医療にかかわる専門職による、患者安全のために歯科医療の質の向上とその共有化を目指す学会横断的な組織「国際歯科医療安全機構」（理事長＝瀬戸院一総合南東北病院口腔外科口腔がん治療センター長）の第8回学術大会・総会が1月21日（日）、本学口腔顎顔面外科学講座が主催し、栗原祐史教授が大会長を務めて、図書館で開かれた。オンライン参加も可能なハイブリッド方式で行い、歯科医師や歯科衛生士ら約200人が参加して、「地域医療から取り組む医療安全の発展を目指して」をテーマに活発に情報交換した。

大会長講演では、栗原教授が「松本歯科大学病院が取り組む感染制御の現状と対策」をテーマに、歯科大病院での新型コロナウイルス感染症の感染動向と実施した感染予防や経費抑制の



大会長講演をする栗原教授

ランチョンセミナーでは、松本歯科大学銀座8丁目クリニック院長の矢島安朝特任教授が「社会的背景を考慮したインプラント治療のリスクマネージメント」の演題で講演。インプラント治療の問題点の一つとして、患者の全身状態の把握が十分であることを挙げた。また「医療機器は、正しく使用されて初めて正しく機能する」などと述べ、歯科医師の能力向上の必要性を説いた。

教育講演では本学病院耳鼻いんこう科の相馬啓子教授が「歯性炎症により発症した耳鼻咽喉科疾患の臨床」と題して、歯科治療に伴う上顎洞炎などについて症例を挙げながら解説した。機構は、歯科も全人的に患者の健康増進に関わる必要性が一段と高まっているとの認識に基づき2018年7月、関連7学会が、学会横断的な研さんの場として設立。多様なテーマについて、第一線で活躍する医師や歯科医師、看護師、歯科衛生士、弁護士なども講師に迎え、活発な情報交換を行っている。

瀬戸理事長は、特別講演の質疑応答でも積極的に発言し、「歯科医も全身管理の重要性についてしっかりと認識する必要がある」などと述べていた。

### 野党、新聞の「初動が遅い」は完全にデマだ！

内閣官房参事  
松本歯科大学常務理事  
特命教授 飯島勲

今月号は「プレジデント」2月16日号「リーダーの掟 飯島勲」より、能登半島地震における政府の迅速な対応についての記事を要約して紹介します。

1月1日、能登半島地震が発生した。新年早々の大災害に心が痛む。亡くなられた方に哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心よりお見舞いを伝えたい。

野党や朝日新聞は、「政府の初動が遅れた」などと岸田内閣を批判しているが、NHKの世論調査では、今回の政府の対応について「大いに評価する」が6%、「ある程度評価する」が49%と、半数以上が評価していることがわかった。同様に、JNNの世論調査では、「政府の対応は迅速か」との質問に「そう思う」との回答が57%に上っていた。実際、地震発生1分

### 本学病院から小児歯科医師が出張 県立こども病院で定期的に歯科検診



県立こども病院で入院患者の口腔内を診る大須賀直人教授

松本歯科大学病院は、2023年11月6日(月)から県立こども病院(安曇野市)に入院中の子どもの歯科検診を開始した。小児歯科の歯科医師が毎月第1・第3月曜日に同院を

地支援を進めている。

政府の動きもさることながら、スピーディーな動きを見せているのが日本財団だ。津波が迫る中、当座の生活資金も持ち出せなかった被災者への現金10万円の見舞金。現地で活動するNPOに対する1事業100万円を上限とする活動資金の提供。そして、道路が寸断され、陸上運送が困難になった奥能登に、物資を積んだトラックをそのまま運べるRORO船を使って支援物資を届けている。聞きなれない言葉だが、トラックがそのまま船に乗って(ROLLON)、降りる(ROLLOFF)ことができることから、その頭文字を取ってRORO船と呼ばれているのだという。

この支援物資の中にある、WOTAが開発したポータブル水再生システムには驚いた。排水の98%以上を再生して循環利用することができるため、水道のない場所でも水を利用できるという。



能登半島地震の緊急対策を発表する岸田首相

特に、今回搬入された屋外用シャワーキットは、持ち運び可能なテント式で、設置にかかる時間はわずか15分だという。すべての被災者を公平に支援するため手続きに時間のかかる行政と違い、過去の経験などから、即断即決で活動を開始できる民間の公益団体のスピードはケタ違いに速い。

約30億円の支援を発表したことや、新型コロナウイルスのパンデミックで、お台場の同財団が所有する船の科学館の敷地内に臨時療養施設を建設したことは記憶に新しい。こうした活動の原資は、ポートレースの売り上げによる交付金と、一般からの寄付によるものだという。

1981年に改正された新耐震基準、2000年に再改正された現行の耐震基準を満たした建物については被害が少なかったとみられている。これから、首都直下型地震や、南海トラフ地震は確実に発生する。政府も防災対策を進めているが、国民一人ひとりも自宅の耐震補強も含め、生き残るための防災について考えてみるべきだろう。

「ムシ歯の洪水」の最中にあるのは、生えたばかりの乳歯がたちまちのうちに次々と齲蝕になっってしまう、親たちが「最初からムシ歯が生えてきた」と錯覚するほどの状況だった。砂糖がたっぷり入った飲み物(当時のカルピス原液は重量比で51%が白砂糖)や甘いお菓子の与え放題の一方で、乳幼児でも歯口清掃が必要だとは、まだだれも考えていなかった時代だったのである。

### 創立者の「視点」



大学誌編集主任  
特任教授 笠原浩

こうした考え方は、筆者の恩師である落合靖一(この時点で東医歯大の教職を辞して、戦後における我が国小児歯科専門開業医第1号になられていた)に「リコール・システムのない小児歯科はありえない」と叩き込まれていた。すでに3か月ごとの定期検診は実践していたのだが、当時は「全く症状のない人が「患者」として医療機関を受診する」ということは、まだ社会常識には存在していなかったから、当初は容易には定着しなかった。

そこで、小児患者を受け入れる際には、保護者に「母親教室」の受講を義務付け、そこで予防の重要性をお話しし、治療後の定期検診の必要性を強調した。さらに「子どもの歯を守る会」を組織し、治療完了した子どもたちは正会員、その保護者は賛助会員として、その趣旨に賛同した親子には入会をしていただいた。

### 60年前の歯科医療(12)

定期的なきちんと受診していれば、それぞれに適切な保健指導と予防処置、たとえば、齲蝕が発見されても早期治療でほとんど痛みを与えずに済ませることが可能となる。子どもたちの歯を確実に守れるようになったのである。

対象者の増加に伴って定期検診の業務を出すことも、かなりの仕事量となってきたが、それを含め、さまざまな面で「守る会」のお母さん方が力を貸してくださるようになった。医療機関からの直接の呼び出しでは、単なる健康診断として保険診療としての取り扱いを否認される恐れがあったが、「守る会」からの連絡であれば、運転免許証更新について交通安全協会の連絡と同等だというわけである。

なく、入院中の子供が専門的な検査を受けることができないため、本学病院が協力を申し出た。周術期や化学療法中の口腔ケアは重要で、口の中の健康を守ることで感染症や様々な口腔内のトラブルを起こしにくくし、平均在院日数の短縮や投薬量の減少につながる。

12月までに、血液腫瘍科などにかかっている第1病棟の入院患者合計10人の歯科検診を行ったが、いずれの子供も口腔ケアが行き届いていて、治療が必要なく、入院中の子供が専門的な検査を受けることができないため、本学病院が協力を申し出た。

小児歯科の大須賀直人科長は、「子どもが健康に成長するために口腔ケアはとても重要。こども病院での治療が順調に進むように手助けをしていきたい」と話している。

小児歯科の大須賀直人科長は、「子どもが健康に成長するために口腔ケアはとても重要。こども病院での治療が順調に進むように手助けをしていきたい」と話している。

「ムシ歯の穴ふさぎ」的な歯科治療が「賽の河原の石積み」同然で、いかに無力なものだったかは、子どもたちのムシ歯の洪水と取り組んでいた当時の歯科医師や歯科衛生士ばかりでなく、愛児の治療に時間的・経済的負担を強いられる親たちも痛感させられていたはずである。

### 歯学部1年の韓国人留学生2人 広丘小学校の「みてある記」に協力 子供たちの案内で短歌館などを見学

塩尻市広丘小学校で11月10日(金)6年生が保護者や地域に暮らす英語話者を、学校周辺の短歌にまつわる施設に案内する実践学習「みてある記」が行われた。広丘小から本学に寄せられた英語話者の留学生派遣の要請に、韓国人留学生で、歯学部第1学年の朴賢民君と、朴焯映さんの2人が快く応じ、子供たちの案内で短歌館などを見学した。

訪問して、1日最大4人の歯科検診を行う。国や自治体が運営することも病院や小児医療センターには歯科を設置している施設が多いが、県立こども病院には歯科が

塩尻市広丘小学校で11月10日(金)6年生が保護者や地域に暮らす英語話者を、学校周辺の短歌にまつわる施設に案内する実践学習「みてある記」が行われた。広丘小から本学に寄せられた英語話者の留学生派遣の要請に、韓国人留学生で、歯学部第1学年の朴賢民君と、朴焯映さんの2人が快く応じ、子供たちの案内で短歌館などを見学した。



子供たちの英語による案内を笑顔で聞く朴さん(左)

子供たちは、学校の南側に隣接する塩尻短歌館では、地元だけでなく、建物の構造や庭などについても、大きな声で丁寧に説明していた。参加者たちは、配られた子供たち手作りの資料も参考にしながら、理解を深めていた。

朴賢民君は、一生懸命に取り組み子供たちの姿に感心しながら、「子供の教育にも関心があるので、とても楽しかった。参加できてよかった」と話していた。

# 歯科放射線学講座・田口明教授がICO国際学会賞 第5回国際骨粗鬆症学会



国際学会賞を受賞した田口教授（右）、Yoon-Sok Chung 韓国内分泌学会会長と共に

第5回国際骨粗鬆症学会（5th International Congress of Osteoporosis = ICO）が11月3日（金）から5日（日）まで韓国・ソウル市内のホテルで開催された。本学歯科放射線学講座の田口明教授が出席し、これまでの功績を称えられ、ICO国際学会賞を受賞した。

学会では、6つのシンポジウム（24講演）と4つの特別講演、20の一般講演およびE-Posterセッションが行われた。田口教授は日本骨粗鬆症学会代表として国際機関紙編集委員会に出席したほか、一般講演も行い、自身が主任研究員を務めた「全国医科歯科連携調査」の結果を報告した。

ICOは通常2年ごとに行われるが、コロナ禍の影響もあって、今回は4年ぶりの開催となった。日本骨粗鬆症学会では、ICOの開催に当たって毎回、座長とシンポジストを推薦している。今回は東京医科歯科大学大学院（産科婦人科学講座）の寺内公一教授を座長に推薦。シン

ポジストには、大阪大学大学院（整形外科）の梶名耕介准教授と、東京大学大学院（疾患生命工学センター臨床医学工学部門）の北條宏徳准教授を推薦し、学会の中では両氏の講演も行われた。

また、基礎研究部門の特別講演では、愛媛大学大学院（愛媛大学プロテオサイエンスセンター）の今井祐記教授が登壇し、注目を集めていた。

学会は、会長のJae Hyup Lee教授の挨拶で3日から始まったが、前日にも田口教授が招待者となって、韓国産婦人科学会と韓国骨粗鬆症学会の合同シンポジウムがあり、カナダの骨粗鬆症専門医であるJacques P. Brown教授による、新規の骨粗鬆症性椎体骨折診断法に関する特別講演が行われるなど、活発な情報交換の場となった。4日夜のGala Dinnerでは、

日本骨粗鬆症学会代表として田口教授が挨拶。続く国際機関紙編集委員会では、今年からインパクトファクターを得たOsteoporosis and Sarcopeniaの今後の運営に関して、検討がなされた。

田口教授は2014年、ICO国際学会賞を受賞した。

## 第10回カムカムメニュー写真コンテスト 最優秀賞は「レンジで簡単！噛みトローフ」

噛み応えのある「カムカム噛み噛み」メニューのレシピを一般から募った「松本歯科大学カムカムメニュー写真コンテスト」の表彰式が12月16日（土）、本学北棟ラウンジで開催された。会場には全応募作品が展示され、各賞受賞者には賞状と賞品が授与された。

同コンテストは、「よく噛んでおいしく健康に」をテーマに、2014年から毎年開催されており、今回で10回目を迎えた。



最優秀作品「レンジで簡単！噛みトローフ」

- 「噛み紙の創刊会議（韓国・ソウル）に日本骨粗鬆症学会代表として出席して以来、編集委員として機関紙発展にも尽力しており、今回はその功績を称えて、香港大学医学部のChing-Lung Cheung教授とともに、ICO国際学会賞を受賞した。」
- ◎最優秀賞  
荻原沙希  
「レンジで簡単！噛みトローフ」
- ◎優秀賞  
石井 萌子  
「れんこん衣の豆腐つくね」
- ◎松本歯科大学賞  
山田 アキコ  
「コロコロカムカム干し人参のサラダ」
- 平林 直美  
「3種の食感で噛む〜んサラダ」
- ayane\_cooking\_1  
「お家の味にササゲとオートミールがアクセント」
- ◎審査員特別賞A  
tonomaru1010  
「くるも長芋と豚肉炒め」
- ◎審査員特別賞B  
百瀬 彩夏  
「カムカム切り干しパニッシュオムレツ」
- 熊原 ほか  
「ドライフルーツとクリームチーズのサクパリ焼き」

- ◎審査員特別賞C  
丸山朋華  
「ライスナッツ」
- yucliam\_acliam  
「えのき味のとろ〜り明太マヨネーズがけ」
- ◎努力賞  
山内 麻悠子  
「運根の食感楽しい！カムカムほうれん草カレー」
- 小泉 聡  
「黒酢香豚ロール ゴボウとコンニャク巻き」
- 下田 郁子・あかり  
「親骨と運根の甘辛揚げ」
- 大坂 なおこ  
「イタリアン焼きそば」
- 石井 和美  
「たこ噛んじやった」
- 関 功介  
「あみどりの炊き込みおこげ御飯」
- 宮下 実知  
「柿のダブルカムカム、ピーナッツあえ」
- 小澤 松子  
「彩り野菜と高野豆腐の甘辛カムカム」
- harukidou  
「チョコレートとお餅の焼きあん」
- 藤井 泉  
「餃子の皮でカレーミートパイ風」

## 軽音楽部が塩尻警察署に協力 ロック・ロック。作戦で自転車施錠呼びかけ

軽音楽部の学生3人は、塩尻警察署からの「ロックを演奏する人に、自転車のロック（施錠）を呼びかけてもらおう」という要請に応じて、12月18日（月）の朝、皮ジャンにエ



塩尻駅前前でチラシを配る軽音楽部員

レキギターを抱えたロックの格好で塩尻市の広丘駅西口の駐輪場で、自転車の施錠を呼びかけた。2023年の年末特別警戒の一環として、塩尻署が企画した広報活動で、名付けて「ロック・ロック作戦」。参加したのは第5学年で軽音楽部に所属する弓立彩有里さん、大橋俊介君、眞方大樹君の3人。駐輪場の利用

者は、塩尻警察署からの「ロックを演奏する人に、自転車のロック（施錠）を呼びかけてもらおう」という要請に応じて、12月18日（月）の朝、皮ジャンにエ

東海大学付属諏訪高校（茅野市）の理数科特進部1年生31人が12月7日（木）、本学を訪れた。高校と大学が連携してより充実した教育を行う「高大連携教育事業」の一環で、施設内見学や特別講義を受講し、実地研修を行った。

## 東海大付属諏訪高の生徒が本学で実地研修 大学の学びや進路について理解深める

生徒たちは図書館や病院、学生ラウンジ、総合歯科医学研究所と見て回った。実習館101実習室では、第2学年の歯科理工学実習の授業の様子を、学生

の後ろから見学した。特別授業は、大学院歯学独立

の理数科特進部1年生31人が12月7日（木）、本学を訪れた。高校と大学が連携してより充実した教育を行う「高大連携教育事業」の一環で、施設内見学や特別講義を受講し、実地研修を行った。

このようにカムカムメニューの普及が広まり、よく噛むことの効用は着実に社会に浸透しつつある。

塩尻署によれば、2023年の管内での自転車の盗難被害は34件発生し過去5年で最多となった。約6割は駐輪場で発生。そのうち8割は無施錠だったという。

神林 徹署長は「ロックバン

ドの目立つ服装で協力してもらい、PR効果があった」と学生たちに感謝し、3人は「ボランティア活動で貴重な経験をさせてもらった。盗難防止に少しでも貢献できたらうれしい」と感想を述べていた。

荻原さんは、姉が本学の卒業生で、自宅に届く本紙「Campus Today」でコンテストを知り、初めて応募した。「思いがけず最優秀賞をいただき、感激して

表彰式に先駆けて「カムカム振り返り10年の歩み」と題して、トークショーが開かれた。



座談会でカムカムメニュー普及の取り組みを紹介

このようにカムカムメニューの普及が広まり、よく噛むことの効用は着実に社会に浸透しつつある。

# 「雷鳥」の渡辺孝貴シェフ 仏の有名レストラン・ニコラ料理長の シェフアシスタントとして研修

学内のフランス料理レストラン「雷鳥」の渡辺孝貴シェフは11月、熊本市のホテル日航熊本がフランス・ブルターニュ地方の四つ星ホテル内のレストランの有名料理長、ニコラ・キャロシェフを招いて開いた特別な美食会「ディネ・アラ・ブルトンヌ」で、シェフアシスタントとして活躍した。渡辺シェフは、ニコラ・キャロシェフと厨房に

入った経験を「本当にまたとない勉強をさせていただいた」と感謝しながら振り返り、「ぜひ今後の仕事に生かしていきたい」と話している。

渡辺シェフは、所属する日本スコラ食堂事業部の責任者で、普段は「雷鳥」で料理の腕を振るうほか、病院健診センターの人間ドック利用者向けの特別料理などを担当している。熊本のホテルでのシェフアシスタントは、本学関係者がこの美食会にも協力した団体「レ・ザミ・ドゥ・キユルノンスキー・インターナショナル」の役員を務めている縁などもあり、携わることになった。



キャロシェフ（右から2番目）らとの記念写真に納まる渡辺シェフ（左から1番目）

## 香川大学医学部 助川信太郎准教授が講演 大学付属病院が地域医療に貢献できること

12月1日（金）の病院セミナーで、香川大学医学部歯科口腔外科学講座准教授の助川信太郎先生にお越しいただき、「香川県への貢献として香川大学医学部付属病院ができること」という演題でご講演をいただきました。また、助川先生のご講演に先立ち、助川先生の下で研鑽を積んでいる本学43期生の花井伶先生より、講座紹介もしていただきました。

ご講演の冒頭では、本学歯科放射線学講座の田口 明教授や病理学講座嶋田勝光講師と共同で行っているAIを用いた診断技術の研究の概要についてお話しされました。いずれの分野においてもAIは診断技術の向上に寄与するという結果を示さ



日頃の取り組みについて話す助川先生

れ、さらには今後の臨床応用を目指す上で「医療人がAIを信頼するか」というところを争点としても研究されており、大変興味深い内容でした。

臨床に関しては、地域医療に貢献しつつ、歯科口腔外科としての収益向上を目指した対策について講演されました。これらの対策としては、新患目を増やし、地域医療機関の先生と迅速

に連携を取るためのホットライオンを開発したこと、さらに、地域の先生が使用されている十数種類のインプラントメーカーのキットを導入し、インプラント治療のための骨造成、埋入手術、補綴処置などあらゆるニーズに対応できる環境を整備することで連携強化を図られていました。

また、地域の矯正歯科の先生とのカンファランスや入院下での抜歯手術を積極的に行うなど、手術件数を増加させる具体策についても詳細にご講演いただきました。

聴講者は宇田川歯学部長、笠原病院事務局長をはじめ、当院教職員、臨床研修医など約70人が、助川先生の大変わかりやすく、また興味深いご講演を熱心に拝聴しました。

ご多忙の中、松本歯科大学にて御講演くださった助川先生に心より感謝申し上げます。

（口腔顎顔面外科学講座 教授 栗原祐史

人に感動を与えた。

渡辺シェフはイベントの2日前から現地入りして仕込みから携わり、当日はニコラ・キャロシェフと一緒に厨房を動き回り、全般をサポートした。「厨房やサービスだけでなくホテルの全スタッフが一つのチームとなって客をもてなす様子が特に印象的だった。ニコラシェフにもホテルの皆さんにもとても親切にしていたいただいた」という。

第35回日本レーザー歯学会総会・学術大会を開催

第35回日本レーザー歯学会総会・学術大会が歯科保存学講座・亀山敦史教授の大会長のもと、11月25日（土）・26日（日）に東京都の京王プラザホテルで開催された。

今回は「Laser Week IV in Tokyo」と銘打ち、第44回日本レーザー歯学会総会（日本医科大学・船坂陽子大会長）、第33回日本光線力学学会学術講演会（名古屋市立大学大学院・片岡洋望大会長）、第19回日本脳神経外科光線力学学会（産業医科大学・山本淳考大会長）との合同開催であり、「レーザー医学・医療の叡智の融合」の4学会共通テーマのもと、先進的な医学・歯学におけるレーザー治療や現

内田啓一教授が最終講義  
パノラマX線画像の読影と  
全身疾患を診断する重要性

本年度末で定年を迎える病院初診室（総合診断科・総合診療科）の内田啓一教授の最終講義「医療人としての心得」が12月4日（月）、キャンパスインで行われました。

歯学部1年生入門歯科医学実習の中で行われ、ご自身の研究テーマである「パノラマエックス線画像より顎動脈石灰化病変診断」の研究実績をもとに、歯科医師も顎顔面領域にとどまらず、全身疾患を診断することの重要性を説明されました。歯科領域においてパノラマエックス線画像を撮影することにより、血管障害などの生活習慣病の発症を防ぐこと、歯科-歯科連携を踏まえ、遠隔画像診断により診断精度の向上が可能となることなどについて講義されました。

歯科医学を学び始めたばかりの歯学部1年生にわかりやすく丁寧にお話をされました。最終

人事異動

〔採用（新規）〕 1月1日付  
林 昶廷（診療助手・地域連携歯科）  
志摩 美樹（事務補助・産学連携）

〔採用〕 1月1日付  
志摩 美樹（事務補助・産学連携）

2月行事予定

1日（木）  
歯学部・大学院  
卒業証書授与式・学位授与式

2日（金）・3日（土）  
一般選抜（Ⅰ期）  
共通テスト利用選抜（Ⅰ期）

27日（火）  
総合型選抜（Ⅰ期）  
一般選抜（Ⅰ期）  
共通テスト利用選抜（Ⅰ期）  
編入学選抜（Ⅰ期）

29日（木）  
総合型選抜（Ⅱ期）  
一般選抜（Ⅱ期）  
共通テスト利用選抜（Ⅱ期）  
編入学選抜（Ⅱ期）  
合格者発表

Matsumoto Dental University SNS Information

LINE QRコード

twitter QRコード

Instagram QRコード

facebook QRコード

受験生の皆さんへ

※総合型選抜(Ⅱ期)  
※一般選抜(Ⅱ期)  
※共通テスト利用選抜(Ⅱ期)  
※編入学選抜(Ⅱ期)

●試験日  
2月27日(火)

※総合型選抜・編入学選抜の試験場は本学です。  
※共通テスト利用選抜は、個別試験はありません。

●出願期間  
2月5日(月)～2月21日(木)

●試験場  
本学・東京・大阪

●お問い合わせ  
HOT LINE 0263-54-3210  
松本歯科大学 入試広報室  
www.mdu.ac.jp